

好きな活動を通してコミュニケーションを育てていこうとした実践

友だちの中で、よりいきいきと活動する子をめざして

井 崎 典 子

はじめに

発語は少ないが、「アーアー」という声と人懐こい笑顔で進んで関わりを求めてくるA子は、「人中でたくましく生活している子」という第一印象だった。同時に、急に学習や遊びを中断したり、親しく寄ってきて、関わりが長続きせず、さっと離れることもあった。このことは、意欲はあるが技能や集中力が伴わなかったり、伝えたいことはあるが、発語が困難なこともあって十分なコミュニケーションがとれていないことによると考えた。本児の持つ意欲や、人と関わりたいという気持ちを大切にしながら、好きな活動を先生や友だちと一緒に楽しむ中で、少し先を見通す力の育ちや自制心の芽生えを育てていきたいと試みた実践について述べてみたい。

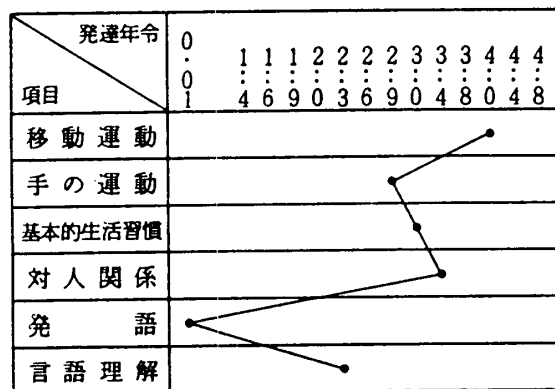
1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和61年4月30日生 8歳7か月 小学部2年 女子 ウィリス動脈輪閉塞症（もやもや病）
- ・正常分娩 体重3,004g 首のすわり3か月 歩行12か月 3歳までは正常発達
- ・3歳8か月 もやもや病と診断され、脳の血管のバイパス手術を行う
- ・A町立A保育所2年 6歳11か月本校入学
- ・家族は、祖母、両親、兄の6人 養育の中心は母と祖母 母は共働きで忙しく、気持ちはあっても十分に本児に関わっていない面もある

(2) 諸検査による実態

・右図のように遠城寺式乳幼児発達検査では、移動運動が高く、発語が落ち込んでいる。手の運動の数値が低いのは、左手の麻痺に起因していると思われる。昨年の同時期と比較すると、手の運動と基本的な生活習慣の項目が、わずかながら向上している。



遠城寺式乳幼児発達検査（H6.4実施）

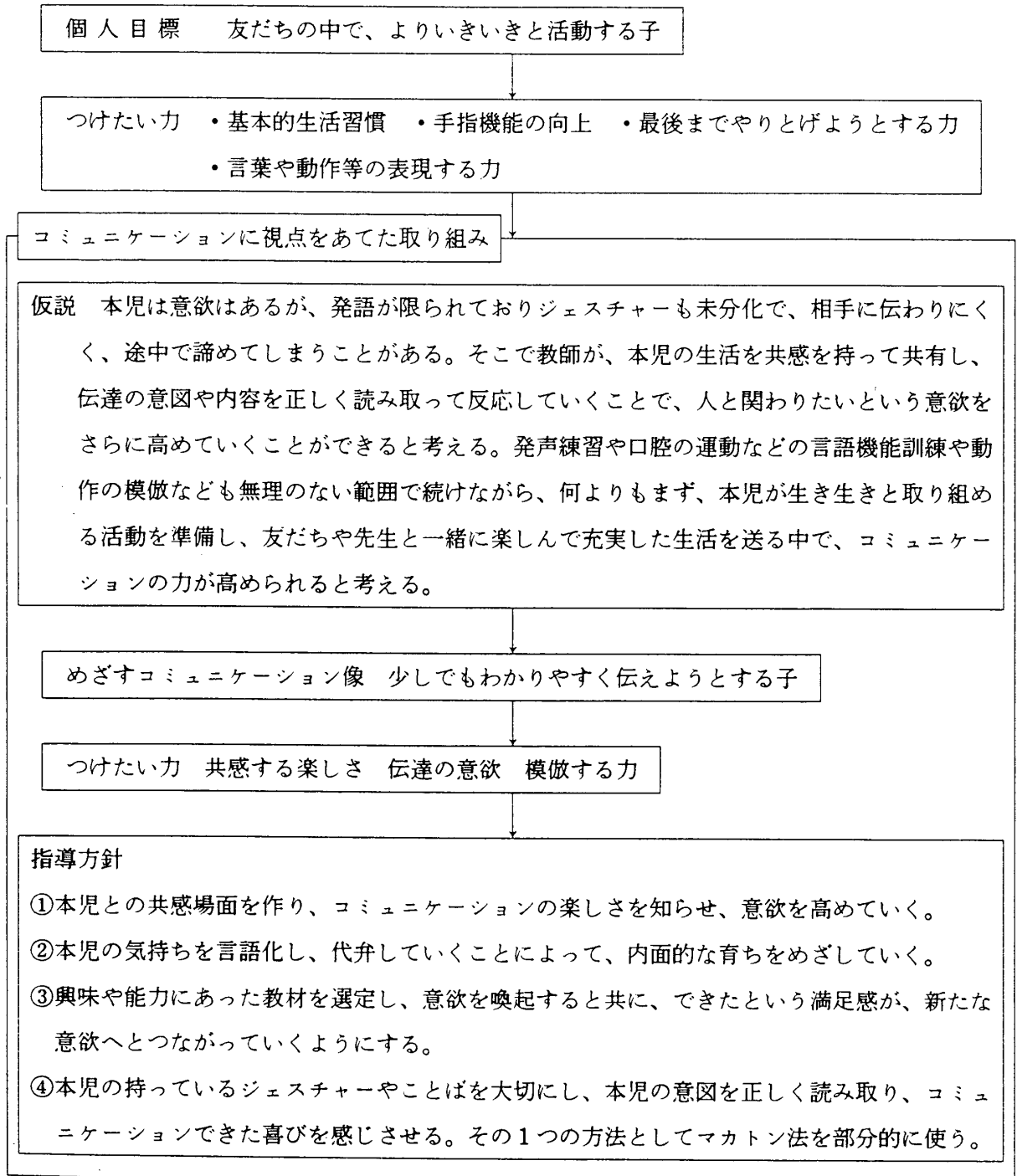
(3) コミュニケーションに関する実態

- ・「アー」という声と手の動作で伝えることが多い。
- ・髪飾りをした日は、朝から何度も「アー」と指さしたり、雨の日は外を指さし「アー」と言ったりと、話題が限定されていて、しかも何度も繰り返すので、言葉がなくても推察できる。
- ・言語理解は比較的高く、普通の日常会話は理解できる。指示については、友だちの行動を真似したりして、周囲の状況を見て判断していることも多い。

(4) 行動特性

- 友だちのしていることに「自分もする」と意欲的に向かうが、集中できず長続きしない。
- 自分でするという気持ちが強く、指示や援助を受け入れず、できないままになることがある。
- 物の取り合いなどで友だちとトラブルになることが多いが、自分がリーダーシップを取れる場面では、友だちと一緒に遊ぶことができる。

2 取り組みの構想



3 指導の実際

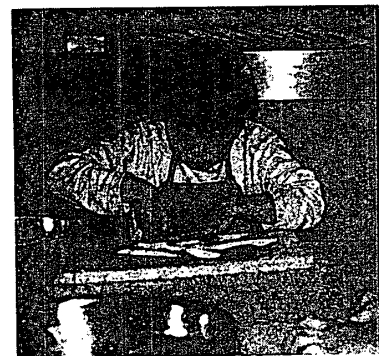
生活単元学習「おかあさん」の指導（5月）

お母さんに手紙を書いたり、お母さんの仕事を真似してみたりするこの単元の中で、A子は生き生きとした姿を見せてくれた。お母さんは最も身近で、大好きな存在であり、「お母さんみたいにしてみようね。」「お母さんみたいに上手。」などの言葉に敏感に反応を示したし、黒板にずっと貼ってあったお母さんの顔（A子作の似顔絵）も意欲づけの1つになったようだ。

①カレーライス作り

調理は2組の5人が比較的集中して取り組める活動である。「将来はA子と共に店を持ちたい。」という夢を持っているお母さんは、家で積極的に夕食作りの手伝い等をさせており、A子も料理が大好きで、自信を持っている。材料の野菜を切ることで集中力が養え、「できました」の報告や「～をください」と材料を要求する場面を意識的に作り、A子に動作と共に発声させることで、より、自分が作っているんだという意識が持てたようだ。友だちや先生と一緒にカレーライスを作り、食べた喜びは大きく、家でさっそく身振り手振りでお母さんに知らせ、家でも作ろうと要求した。

包丁代わりの食事用肉切りナイフを逆に使っておりなかなか切れなかった。「逆さだよ。」と手を添えて直そうとすると『自分がする。』という思いから教師の手を振り払うようにしたが、やはり切れず、2回目の指示には従った。刃の上の方にシールを貼ることで、間違いは減ったが、その後も時々間違えていた。報告や要求は初めに「テンテイ」（先生）と大きな声で呼びかけ、先生がA子を見てから、「アー」という声と共に、ボールを差し出したり、材料を指さすように指導した。初めは、顔をうかがうような表情をするだけで、声が出なかったが、繰り返すうち、次第にはっきりと発声できるようになり、ほめられるとうれしそうにならずにいた。



材料を切る真剣な目

②洗濯ごっこ

使いやすく絞りがやすく、また手触りが良いことから、各自のタオルを手洗いすることにした。楽しんで洗うことに主眼を置き、絞り方・干し方については細かく言わないようにしたが、手の麻痺があり力が入りにくいA子は、掃除の後の雑巾洗いの際に、個別で絞り方の指導をした。ねじることは難しく、握り絞りになっているが、かなり、水を切ることができるようになった。水で遊ぶことが好きなので、洗濯の学習をとっても楽しみにしており、体の前で右手首をぐるぐる回す独特のジェスチャー（プールとか雨とか水に関する物を示す）で、盛んに「したい」という気持ちを表現していた。用具を準備したり片付けたりする手順についての指示、友だちと順番を守って水道を使うことなどの指示も、楽しさに支えられ、受け入れることができた。



水遊び大好き

個別の時間の指導

担任が変わったので、まず仲良く一緒に遊ぶことから入り、A子の要求に答え、受容的に接していた。それから徐々に、学習へ取り組む体勢を作っていた。方針としては以下の4つである。

- ・担任との共感関係を作り、指示を受け入れられる体勢を作る。
- ・はじめと終わりのあいさつを明確にし、その間は1つか2つの課題に集中する。
- ・準備や片付けも一緒にし、最後まできちんと取り組むことを習慣化する。
- ・発声練習や手遊び等を、強制的でなく、遊びながら継続して取り入れていく。

題材としては、「ぬり絵」「パズル」「切り絵・貼り絵」「絵と文字、文字と文字のマッチング」「手を添えてのなぞり書き」等を取り上げ、組み合わせて実施した。

発声練習（アーとできるだけ大きく長く発声する）と口腔の運動（大きく口を開けたり閉じたりする、吹く）は、毎回短時間取り入れたが、A子は動作の模倣が難しく思ったような効果はまだ見られない。シャボン玉遊び、くすぐり、追いかっこなど、遊びの中で自然に目的が達成されるような指導の方が、A子の緊張が少なく、今後もこの方向で、根気強く続けていきたいと考える。

初めのうちは、教師の出方を見ているような様子もあったA子だが、「先生と一緒に、2人で遊ぶ（学習する）時間」だと納得できてからは、指示も割とスムーズに受け入れられた。1つの課題は教師が設定し、「今日はこのぬり絵をしようね。すんだらもう1つ遊べるけれど、何がしたい？」というように、A子の意志を尊重し、言葉や動作を引き出すように努めた。個別学習の中でできた作品には、なぞり書きで名前を書いたが、始めは手を添えられることをいやがったり、目がそれてペンの方を全く見なかったりすることもあった。しかし、3～4度繰り返すと、自分から「アー」と名前を書くことを要求した。繰り返しや、見通しをたてることで、安定した心で取り組めることを改めて感じた。



ぬり絵

4 反省と今後の課題

「Aちゃん、貸して。」— 友だちの言葉に、大好きなセーラームーンの本を抱いて離さないA子。「Yちゃんかわいそう。ちょっとだけ貸してあげて。『どうぞ』って。」— 長い葛藤の末に「アーア（どうぞ）」と本を差し出すA子。「Aちゃんえらい。すごいね。」という教師の言葉に漸く笑顔が見えた。身近な大人に支えられての自制心の芽生えが、少しずつ見られるA子の姿である。

発語を少しでも増やしたり、ジェスチャーを少しでもわかりやすくしていくための指導は今後も継続していく。しかしそれだけに囚われず、今の生活を充実させ、楽しめる活動を準備していくことで、本児の持っている意欲や興味・関心、世話好き・手伝い好きの面を伸ばし、その中で、友だちや先生と関わる楽しさや、友だちを思いやる心を育てていきたいと考えている。



私にもさせて